

## INDEX

- 01 融資がつむぐまちづくり
- 05 がんばる公営競技
- 07 利用してみよう! 地方支援事業
- 11 ファイナンス博士の  
みんな気になる、お金のこと
- 13 人とつながる、世界が広がる、  
わたしのJFMダイアリー
- 14 機構からのお知らせ
- 15 私たちもJFM債買っています!
- 15 編集後記

広島県熊野町

筆の魅力を発信し、筆文化をつむぐ  
**筆の里工房**



事業区分 >>>

公共施設等  
適正管理推進事業

地方公共団体金融機構  
資金の活用により、施設  
のリニューアル及び長寿  
命化を果たした事例をご  
紹介します。



筆の魅力を発信し、筆文化をつむぐ

# 広島県 熊野町 筆の里工房

日本一の筆の生産量を誇り、「筆の都」として知られる広島県熊野町。

この町のランドマークであり、観光の拠点となっているのが、  
筆をテーマにしたミュージアム、筆の里工房です。

地域の特徴を活かした町づくりの中心的な役割を果たすとともに  
筆の魅力を多くの方々に伝え、筆文化の継承に貢献しています。



社会科見学で多くの小中学校の子どもたちが訪れ、筆の歴史と魅力を楽しみながら学んでいます。



所在地：広島県安芸郡熊野町中満5丁目17番1号  
開館：1994年9月20日  
延床面積：3,357㎡  
穂先部分を約200頭分の馬の尻尾で作成した、  
長さ3.7m、重さ約400kgの「世界一の大筆」をはじめ、  
筆や文字に関するさまざまな品々を展示。  
地上1階、地下1階のフロア構成。

# 筆の里工房って？

## 筆文化の魅力を多面的に伝える 熊野町が誇るミュージアム

筆の里工房は、「熊野筆」という地域の特性を活かし、熊野町の魅力ある町づくりの中核を担うミュージアムです。熊野町が1994年に建設し、一般財団法人筆の里振興事業団が運営しています。開館以降、著名文化人によって書かれた書や、質・量ともに日本に現存する唯一最大の木村陽山コレクション（1,000点を超える毛筆コレクション）に関する資料を継続的に収集・展示しています。

また、毛筆、画筆、化粧筆などさまざまな筆を展示・販売しているほか、書、絵画、工芸、化粧など筆の織り成す文化も紹介しています。毎年6万人ほどの来館者数を記録する町内随一の観光施設であり、筆の都のシンボルとなっています。

## 筆を使う作者の思いまで伝える バラエティー豊かな企画展

常設展示だけではなく、さまざまな企画展も人気です。開催の基準は、「筆を使って制作された作品」であること。書道作品のみならず、アンパンマンの作者であるやなせたかしさんの作品展示や、スタジオジブリのプロデューサー鈴木敏夫さんが筆などで生み出す言葉や文字に注目した展示など、バラエティー豊かな企画展を数多く開催し、好評を博しています。

可能な限り作者ご本人を施設に招き、トークショーを開催していることも筆の里工房のこだわりです。作品のみならず、筆を使って作品を生み出す作り手の想いや考え方で紹介することにより、筆の魅力を多くの方々に伝えています。



### 熊野町役場 石田さんの 見どころ CHECK!



### 筆の歴史 をたどる 筆の宇宙

筆と文字の歴史を日本文化の変遷をたどりながら紹介するコーナーです。古代筆や甲骨文字、現存する日本最古の筆「天平筆」のレプリカなどを紹介しています。

### 実演する 筆司の家

熊野筆の伝統工芸士が筆づくりを実演するブースで、匠の技を間近で鑑賞できます。工芸士の指導を受けながらの筆づくり体験（有料）も人気です。



### 世界最高峰 の毛筆 コレクション

書家であり毛筆の収集家としても知られる木村陽山氏（1899～1986）の毛筆コレクションをはじめ、筆や筆文化に関する幅広い展示を行っています。



### 本格的な 茶室

施設の敷地内には、茶室「鐘聲庵」があります。広島の地に伝わる武家茶道・上田宗箇流の茶道教室などを開催しています。



# 伝統文化を次世代につなぐ！ 筆の里工房

開館25周年を機に大規模な改修工事を行い、2019年4月にリニューアルオープンした筆の里工房。  
筆の都のシンボルとして、これまで以上にパワーアップした同施設が果たすべき使命について、  
熊野町役場地域振興課の石田裕さんにお話を伺いました。

Interview

## 筆文化を守り、育むとともに、 魅力ある町づくりの拠点にしていきたい

### 筆の都のシンボルであり、町民の心の拠り所

熊野町は、筆産業により発展してきた町です。この地で生まれ育った多くの方々が、日本の筆文化に貢献していることを誇りに感じています。そうした筆づくりの誇りは、筆の里工房がオープンしたことにより、より一層強まったと実感しています。筆の都のシンボルとして、町外の方々にも自信をもってアピールできる筆の里工房の存在が町民の心の拠り所になっています。

1994年の開館以降、毎年多くの方々にご来館いただけてきましたが、近年では什器の老朽化や空調設備などの不具合が目立つようになり、25周年を迎えたタイミングで、大規模な改修工事を行いました。

### 開館25周年のリニューアルで、より“体験型”の施設に

リニューアルの際に重視したのが、“体験型”の展示の充実です。体験を通じた「コト消費」が観光のトレンドとなっていることを踏まえ、体験コーナーを新設し、さらに、従来からの展示品も、“観る”だけではなく“触れて”楽しめる展示方法へと改善しました。以前は、展示物を静かに鑑賞されるお客様がほとんどでしたが、リニューアル後は、お子様を中心とした来館者の賑やかな声が館内にあふれるようになりました。また、スタッフからも、来館者の方々に筆の魅力を伝えやすくなったというポジティブな報告を受けており、リニューアルの手応えを実感しています。

今回のような大掛かりな改修費用を町の財政だけで賄うのは困難です。地方公共団体金融機構の融資によりリニューアルが実現し、大変感謝しています。

### 筆文化の継承と、地域活性化への貢献を目指して

一般の方々が日常的に筆を使う機会が減り、また、安価な中国産の筆が大量に流入していることなどを要因に、熊野筆の生産量は減少傾向にあります。さらに、筆づくりを担う伝統工芸士の高齢化が進んでおり、後継者の育成も大きな課題です。そうした状況において、筆の里工房が果たすべき役割は、ますます大きく、重要なものになっていると感じています。

後継者育成という観点では、施設内に伝統工芸士の匠の技を見学できるブースや、伝統工芸士の指導のもと、筆づくりを体験できます。これら施設での経験をきっかけに、若い世代の方々が筆づくりに興味をもっていただけることを願っています。

また、筆文化の継承だけではなく、地域の活性化という側面でも、筆の里工房に寄せる期待は大きいです。今後、筆の里工房と隣接する山地に公園を整備する計画があり、筆の里工房を中心に熊野町の文化や自然を楽しめる観光スポットへと育てていきたいと考えています。これからも筆文化を守り、育みながら、個性的で魅力ある町づくりを進めていきたいと思います。



熊野町  
観光大使  
ふでりん



熊野町役場 総務部  
地域振興課 主査  
いしだ ひろし  
石田 裕



筆に水をつけてダイナミックに文字を書ける大サイズの  
水書版は、体験コーナーの中でも特に人気です。



実際に穂先に触れて、筆の仕組みを実感できる展示など、体験型の設備が充実しています。

## ご当地紹介

# 広島県熊野町



広島県の西部に位置し、広島・呉・東広島市に隣接する熊野町。四方を500m級の山々に囲まれた四季折々の自然豊かな高原盆地です。筆の都として知られるとおり、筆づくりの名人である伝統工芸士をはじめ、筆関連の仕事に従事する方が町内にたくさんいらっしゃいます。

- 人口:23,928人
  - 世帯数:10,583世帯
  - 面積:33.76km<sup>2</sup>
- (令和元年11月30日現在)

### 全国からの観光客で賑わう筆まつり

毎年秋分の日に開催される筆まつりは、熊野町の一大イベントです。役目を終えた筆に感謝を込めて行う筆供養や、20畳大の布に巨大な筆で書き上げる大作席書、特別価格で筆を購入できる筆の市など、楽しい催しが満載です。全国からの観光客で賑わいます。



### 国内有数の茅葺き屋根民家

熊野町の町内には、屋根材に茅を用いた民家が約30軒現存しており、人が居住している民家の数としては、国内でも有数の規模といわれています。\*昔ながらの日本の田園風景の風情が色濃く残っているところも熊野町の魅力です。

\*西中国茅葺き民家保存研究会の見解



### 人気のご当地グルメ「くまの鳥コーロー」

鶏肉とキャベツ、コラーゲンたっぷりの特製タレを使った自慢のご当地グルメです。化粧筆で外見を美しく、そして、くまの鳥コーローで体の中からも美しくなりたいという想いから開発されました。化粧筆と同様、女性におすすめの逸品です。



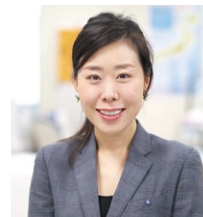
## 歴史を辿る! 熊野町の筆づくり

熊野町における筆づくりの歴史は古く、江戸時代にまで遡ります。当時、農業だけでは生活を支えきれない農民の多くが、農閑期に紀州(現在の和歌山県)の熊野地方や大和(現在の奈良県)の吉野地方へ出稼ぎに行き、帰郷の際にそれらの地方でつくられた筆や墨を仕入れて行商を行っていました。そして、江戸時代後期に、広島藩を治めていた藩主の浅野家の御用筆司の下で、筆づくりの技法を身につけた熊野の住人が、村に戻って村民にその技法を伝えたことが熊野筆の起源とされています。

以来、脈々と受け継がれてきた熊野町の筆づくり。1975年には伝統的工芸品の指定を受け、現在では、毛筆、画筆、化粧筆のいずれも全国一の生産量を誇っています。また、近年は化粧筆の品質が国内外で高く評価され、今や「熊野筆」は世界的なブランドとして知られています。



## JFMスタッフ Message



融資部  
融資管理課  
広島県担当  
**山縣 まなみ**

公共施設等適正管理推進事業は、公共施設等総合管理計画に基づいて推進する公共施設等の「集約化・複合化事業」「長寿命化事業」「転用事業」等を対象としており、筆の里工房のリニューアルに際しましては、施設の長寿命化事業として、機構資金をご活用いただきました。

機構では、電子申請通知システムにおいて、借入実績の照会のほか、地方公共団体の皆さまが資金調達を行うにあたっての一助として、「償還年次表シミュレーション\*」を提供しています。借入条件の入力により、総支払額の試算及び償還年次表の試作が可能となっており、ご好評をいただいております。機構資金の借入れの際は、ぜひともご利用ください。

\*機構HPから「電子申請・通知システム」にログインしていただき、メニュー「情報提供」よりご利用ください。